

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎ 364-8442

新年を祝う会を終えて

恒例となりました新年を祝う会も、第十回を迎えました。

大代全地域より、来賓者を始め、九十名程の参加をいただき盛会に終了致しました。毎年のごですが、会場では、本当に久しぶりの方々とも再会することができました。お互いの疎遠を謝し、今年の抱負などを語られた風景等が所々に見受けられ、年一度の地域の場としての「コミュニティ」ではなかったでしょうか。

舞台では、田中さんの特別出演を始め、大勢のカラオケファンで会場を盛り上げていただき、本当にありがとうございました。

来年はより多くの方々のご参加をいただいで、楽しい新年会を計画したいと思います。

最後に前日の準備、当日のお手伝いをいただきました皆様には厚く御礼を申し上げます。

コミュニティ推進部長 内ヶ崎勝夫

防災広報塔の運用開始に当たって

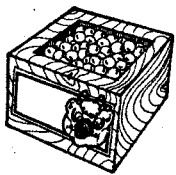
新年お目出とうございます。静穏な新年を迎え、安心できる快適な年でありますようにお祈り申し上げます。

昨年十一月防災広報塔の竣工（東北石油が建設し多賀城市に寄附）についてお知らせしましたが、去る一月二十日施設について管理運営の要綱が提示され、検討協議の結果次のように決定されました。

あいさつは心のふれあい あいさつは心をつなぐ あいさつは心をつなぐ

施設の所管は多賀城市で、区長さんが取扱責任者に決まりました。この施設は防災活動及び公共活動に使用することとし、防災の広報は市防災対策室及び多賀城消防署、公共活動の広報は区長が行うこととなります。広報塔は既設（公民館、小野屋ホテル）のものとあわせて五基となり、大代地区全域がカバーされ、有事のときは広報連絡車と連動し徹底した通報活動が出来ることになりました。この他東北石油は事故防止の万全を期し、製油施設の改善、勤務体制の強化を進めるほか、地域交流室の設置、工場の見学、懇談会、スポーツ大会の開催等細かい市民交流を推進してこられました。施設の運用開始に当りその実績を受けとめ、市民の要望にご理解をいただき精力的に取り組まれた東北石油の誠意とご努力、市民との良好な環境を構築できましたことに對し、改めて感謝の意を表し、市民各位の真剣な取組み、ご協力に對しても心から感謝を申し上げます。

今後は更に市、東北石油との情報交換を密にし、共存の絆を強化しつつ事故のない快適な環境の保持を目指して努めて参りますので関係各位の温かいご協力をお願い申し上げます。 大代地区防災対策協議会



節分今昔

本郷敦子

年が改まり、すでに一カ月が経過しました。二月に入りますと三日の節分、翌日は立春と、春はすぐそこまで来ている。節分と云いますと、社寺等では年男、女達が豆を撒き厄を落とし、一年を心身清浄に送れる事を祈念している姿が見受けられます。

暦では、雑節の一つで、立春の前日の事を云います。太陽暦（新暦）では、二月三日か四日に当りますが、太陰暦（旧暦）では一月初旬や十二月に行われた場合が多かったため、大晦日や正月の行事と影響し合っている部分があるそうです。

全国的な節分行事に、豆撒きとヤキカガシがあります。豆撒きは、大豆を炒って神棚に供えた後、屋内外の神々に撒き供え、さらに「鬼は外、福は内」等と唱えながら、屋内外に撒きます。大豆は鬼へのつぶてとされていますが、元来は神への供え物だったのでないか、とも云われています。ヤキカガシは終や豆幹に焼いた鯛を付けて、戸口に挿したり、家の中で大蒜や毛髪等、臭いの強いものを燃やして邪気を払うとされています。豆撒きにしろ、ヤキカガシにしろ、この夜、何らかの神霊の来訪を意識してなされる行事です。又炒る時の豆の焦げ具合で、年間の晴雨や豊凶を占う年占いも広く行われていたそうです。

連載読物

二代目花咲かじいさん 「11」

若生一徳（大代西）

度肝をぬかれながらも倉蔵は、意地悪じいさんのほめ言葉の中に、単なるおべっかとは違う何かを感じとったのでしようか。足を止め襟を正し、にっこり笑って返礼したのです。

「おお倉蔵どん、みごとな笑顔に向けて下さいましたな。朝一番でえびす顔が拝めてうれしいよ。ひとに幸運をもたらすえびす顔、倉へしまい込まず、身近かな人びとに何度もふんだんに見せて下され。宝の持ちぐされはいけませんぞ！」

「い、いじわ、いや、茂作じいさん、泣き上戸のまっくらそうと呼ばれているおいらに、そんな、そんなええことなど、何もありませんよ」

「いやいや、お前さんの笑顔には、陰気を吹き飛ばす陽気が備わっている」
自分を卑下しながらも、美点をとらえ称揚されてほのぼのとあたたかく、倉蔵の顔に再び明りがともりました。
「そう、それ、今日から倉蔵どんは笑い上戸のえびすさまになっておくれ。わしも意地悪とさようならしたんだ」
「朝からなんて縁起のよいことが。ああ、酒に酔ったときは雲泥の差。それに、とてもよい匂いがするでねえか。さつき小鳥のさえずりが聞こえたと思ったら、ふしぎだなあ。」

（以下次号）

御祝儀 お見舞いは 三千元を限度にお返し物はいらないようにお互い気を配りましょう

年男の駄弁

卯年が巡ってきた。兎のように跳びはね、不況を打ち破る年でありたいとは誰しもが願っていることである。

昭和初期の卯年に生をうけてからめぐりめぐって五度目を迎えた平成十一年。振り返れば、その節目節目が走馬灯のように脳裏を横切り、日本の世相の縮図ともいえる七十余年であったと思っている。

最初の節目は、日中戦争(支那事変)の勝利に湧き立っていた少年期。

当時多賀城村は純農村として自然環境に恵まれた大自然の中で山野を駆け回った。夏には蛍捕り、川遊び、秋の小鳥捕りに蝗捕り、冬の竹スキー、下駄スケート等すべて自主自作による手造りが主な遊び道具であった。春、秋の農繁期には田植え、稲刈り等の家業の手伝いを当然のことのように過ごした。

また日本古来の美德であった「父母に孝に兄弟に友に夫婦相和し朋友相信じ恭儉己を持ち博愛衆に及ぼし」……という道徳教育が祖父母から父母へ、父母から子へと家庭教育として語り伝えられ、おのずと身につけていった。終戦を境にこの道徳教育が民主化の風に吹き飛ばされてしまったが、国家に対する強制を規定した所さえなければ今でも道徳の規範となる名文だと思っている。

青年期初期に終戦を迎え、戦争の惨

禍による荒廃と、衣食住の欠乏による苦難の道のりは、当時の先輩同胞でなければ計り知れないものであった。現在のようには経済が目に見えて豊かになってきたのは三十年余前からで、

三点セットの電化製品、自家用車等が各家庭の必需品となつてきている。消費節約の時代から大量消費、それに伴う弊害が現在大気汚染、ゴミの公害化に移行している。

今後現在の文化生活を維持していくためにも、自然環境を保全し、共生社会を持続してゆきたいものである。

大代西 佐藤甚六

タイカ？ タイケ？ おおや？

あるテレビ番組で「リョウケの子女」と言うのを聞いてガツカリしていたら、その後しばしば耳にするようになりました。さらには「デンケの宝刀」というのさえ出てきたのです。ああ、日本語衰えたり……

「良家の子女」は「リョウカ」が本来で、「伝家の宝刀」は「デンカ」でなければなりません。「家」という字の力とケの音は、日本では使い分けてきたのです。ケと読むときは、原則として「家来」など例外はありません(家系・家族を指し、その他一般には力と読んできました。「良い家」「家に伝わる」は、ですから「カ」なのです。

「デンケ」といえば、「田さんの家系」の感じがしますし、「リョウケ」といえば「両家」が思い浮かびます。

「家」に「大」をつければ「大家」になりますが、これには三通りの読み方があり、それぞれ意味が違います。(この場合のケは一般の家の意。

(タイカ その道に特にすぐれた人
 ● 大家(タイケ 富裕な家、社会的地位の高い家
 (おおや 貸している家の持ち主

このように、読み方によって意味が変わる例を、ほかにもいくつかあげてみましょう。

- 変化 化学変化 妖怪変化
- 造作 造作もない 家の造作
- 一期 一期先輩 一期一会
- 追従 人に追従する お追従笑い
- 家人 留守番の家人 源氏の御家人
- 心中 心中を察する 天城山心中
- 大勢 大勢を決する 大勢の人々
- 人気 人気歌手 人気のない夜の街

短歌

三日月の細き刃が窓に冴え
 より処なきわが今宵の心
 跡辺文江

淡々と桔梗色なる山肌の
 二上と聞けば悲しき史書ぞ
 本郷貞子

今は昔茸とりせし松原は
 変りてしまいき石油の基地に
 小倉紀美子

たごつくり教室終了



先月の九日(土)大代地区公民館を主会場に実施した「たごつくり教室」には、子供達と親など九十三名が参加し行われました。

当日は、仙台たこの会に講師を依頼し、約二時間かけて指導していただき、一生懸命取り組んだ結果、全員が思い思いのたこを見事に製作することができました。

その後、場所を緩衝緑地公園に移動し寒風の中、色とりどりのたこが、大空に舞い上がり成果も十分であったことと思います。

また、子ども会育成会の方からトシ汁を持って成していただき、参加者相互の交流と親睦を大いに図り、有意義のうちに終了することが出来ました。

本教室のために、ご協力頂きました各地区の子ども会育成会の方々に對し厚く御礼申し上げます。